

清友

No. 14

2010年10月



小石川植物園

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

全国高齢者集会



9.15 全国高齢者集会



9.14 地公退高齢者集会 (川端事務局長報告)

今年も9月の高齢者連続行動がもたれ、清掃退も元気に行動に参加しました。

地公四単産・地公退高齢者集会

9月14日、神田一ツ橋の日本教育会館で開催されました。

集会の基調は、貧困と格差のない社会と生きがいのある高齢者社会の実現、安心・安定の年金制度確立、安心の高齢者医療制度確立、介護保

険制度充実、憲法9条と民主教育を守り、世界平和・核廃絶を実現することです。

きの政権支持を表明、新たな高齢者医療制度の早期実現と公正税制の実現等を当面の目標とする考え方を示しました。また、南雲連合事務局長は、安定した雇用システムや安心できる社会保障の再構築による労働の尊厳と公正・公平な社会実現による「労働を中心とした福祉型社会の実現」を目指すと挨拶しました。

りました。沖藤さんは、「現行介護保険制度は生活を守る視点が抜け落ちている」「介護保険制度が残って高齢者の生活が崩れる」「特に東京の介護保険は最低」と制度の問題点を次々と指摘、「介護保険の本丸は、軽度のうちからの生活援助、清潔と適切な栄養を守ることにある」と提言しました。

全国高齢者集会

9月15日、日比谷公会堂に全国から2千人が結集して開かれました。

主催者挨拶で真柄高退連会長は、「民主党政権が私たちの切実な要求にこたえる政権へ再生してほしい」と引続



新たな高齢者医療制度公聴会

各界代表が意見表明くできレースの感も

厚生労働省は、後期高齢者医療制度導時の反省を踏まえ、後期高齢者医療制度の廃止とその後の新制度の設計にあたり、高齢者をはじめ国民の意見を聞きながら進めるとして、各界の意見交換会や公聴会を開催しています。

全国6ブロックで公聴会

公聴会は全国を6ブロックに分けて行われ、東京が最後となり、10月5日、新宿文化センターで開催されました。

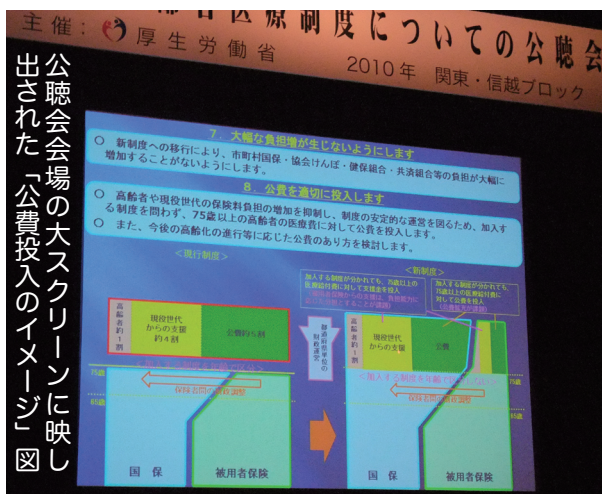
藤村厚生労働副大臣による

主催者挨拶に続き、岩村正彦・高齢者医療制度改革会議座長（東大教授）より「高齢者医療制度改革の方向性」、吉岡てつ長より「高齢者医療制度改革のポイント」の説明（概要は本紙前号参照）があり、事前アンケート中7件の意見に対する回答が示されました。

会場から8名が発言

会場との質疑応答に移り、会場で提出された493名の意見書の中から厚生労働省が選抜した8名が意見を発表、岩村座長及び吉岡課長が回答する方式で進められました。

- 主な意見は、①後期高齢者医療制度を即刻廃止し、老人医療制度へ戻すべき、②国保の広域化に反対、③医療費高騰の抑制策、保険者の役割、財源確保策を示すべき、④若年層への高負担防止策検討を、⑤介護保険制度を含めた総合



的検討が必要、⑥制度のPR方法を工夫すべきなどでした。

自治退の見解を踏まえて

田辺東京高退連会長が発言

東京高退連の田辺会長（建設出身）は、自治退の見解を踏まえて「新制度への移行を速やかに行うべき。今年・来年と連続して後期高齢者医療の保険料が上がるのは納得できない。後期高齢者を国保へ戻すにあたり差別が生じないようにすべき。医療費負担は65歳以上を1割負担にすべき。」と意見具申しました。

吉岡課長は、「新制度へ向けたシステム改修に2年かかり、最短で平成25年4月制度発足。

新年金制度検討会「中間まとめ」を発表

政府が3月に発足させた「新年金制度に関する検討会」（議長は首相）は、これまでの検討内容を整理し、「新たな年金制度の基本的考え方（中間まとめ）」を発表しました。

この「中間まとめ」は別記のように、日本の社会経済の変化と見通し（過去↓現在↓

後期高齢者医療の保険料は制度終了まで抑制を継続。国保広域化は第一段階は高齢者のみ、第二段階で年齢統一するが、具体的方法は検討課題。新制度の保険料で所得割分を増やすと中位所得者の負担増になる。65歳以上の全1割負担では44億円の負担増になり、若年層の負担が増えるので、検討課題。」と回答しました。

公聴会は、戸口崇厚生労働省保険局長が、「国民皆保険の充実が必要という共通認識に立てた。後期高齢者医療制度導入時と違い、国民の意見を十分踏まえ、国民が納得できる制度を構築していきたい。」と締めくくり、終了しました。

未来）に基づき、制度間格差や国民年金の未納・未加入等の問題を克服するため、新たな年金制度を創設することが必要としています。

しかし、年金は超長期に加入者の権利に直結する制度ですから、慎重の上にも慎重な検討が望まれます。

新たな年金制度の基本的考え方（中間まとめ）概要 ～ 安心・納得の年金を目指して～

<我が国社会経済の変化と見通し>

過去(1970年頃)

- ・人口1億400万人で増加中
- ・平均寿命は男69歳・女75歳
- ・65歳以上のお年寄りは人口の7%
- ・8.5人の現役世代に高齢者1人
- ・出生数は年190万人、15歳未満の子どもは人口の24%
- ・3世代世帯は16%、一人暮らしの単身世帯は20%
- ・専業主婦世帯のほうが多数
- ・初婚年齢は男27歳・女24歳
- ・生涯未婚者は男2%・女3%
- ・離婚件数は9万6千件

- ・労働力人口は5150万人で増加中
- ・第1次産業従事者が4割弱、自営業主が3割弱

- ・家業を継いで自営業者を営む、一つの会社で働き続けるといった「標準的なライフコース」が想定でき、「人生の予測」がしやすい

現在

- ・人口は1億2700万人でピーク
- ・平均寿命は男79歳・女86歳
- ・65歳以上のお年寄りは22%
- ・3人の現役世代に高齢者1人
- ・少子化が進行し、出生数は年107万人、15歳未満の子どもは13%
- ・3世代世帯は7%、一人暮らしの単身世帯は30%
- ・共働き世帯のほうが多数
- ・初婚年齢は男30歳・女29歳
- ・生涯未婚者は男16%・女7%
- ・離婚件数は25万3千件

- ・労働力人口は6800万人でピーク
- ・第1次産業従事者は5%未満、自営業主は1割まで減少
- ・若年者の非正規雇用が増大
- ・転職が増加

- ・「標準的なライフコース」がたどりにくく、「人生の予測」が難しい

未来(2050年頃)

- ・人口は1億人未満まで減少
- ・平均寿命はさらに伸長
- ・65歳以上のお年寄りが4割以上
- ・少子化はさらに進行し、出生数は年50万人未満、15歳未満の子どもは9%まで減少
- ・一人暮らしの高齢者世帯がますます増加
- ・生涯未婚者は男30%・女23%に増加

- ・労働力人口の減少が不可避。女性や高齢者など誰もが意欲と能力に応じて働ける社会づくりが必要
- ・グローバル化、サービス化、IT化などで働き方が一層変化。若年層の雇用安定が課題

- ・「人生の予測」が難しくなったことに伴い、老後への不安も高まる

<新たな年金制度創設の必要性>

- 職業によって制度が分立しているため、制度間格差や移動手続が面倒といった問題が発生
- 国民年金の未納・未加入問題は深刻で、老後の低年金・無年金につながるおそれ



現行制度を存続することは困難であり、新たな年金制度を創設することが必要
社会保障・税に関わる番号制度や、様々な分野の制度との整合性を図りながら、新年金制度を創設

<新年金制度の基本原則>

- ① 年金一元化の原則
全国民が同じ一つの年金制度に加入すること
- ② 最低保障の原則
最低限の年金額の保障があること
- ③ 負担と給付の明確化の原則
負担と給付の関係が明確な仕組みにすること
- ④ 持続可能の原則
将来にわたって誰もが負担でき、安定的財源を確保するなど、持続可能な制度とすること
- ⑤ 「消えない年金」の原則
年金記録の確実な管理と加入者本人によるチェックができる体制とすること
- ⑥ 未納・未加入ゼロの原則
年金保険料の確実な徴収により、無年金者をなくすこと
- ⑦ 国民的議論の原則
国民的な議論の下に制度設計を行うこと

東京清掃第79回定期大会

東京清掃の未来を切り開くため 何をなすべきか熱心に討議



鈴木副会長
来賓挨拶

東京清掃は、9月26日、全電通会館で第79回定期大会を開催し、退職者会から来賓として鈴木副会長と戸枝会計が参加しました。

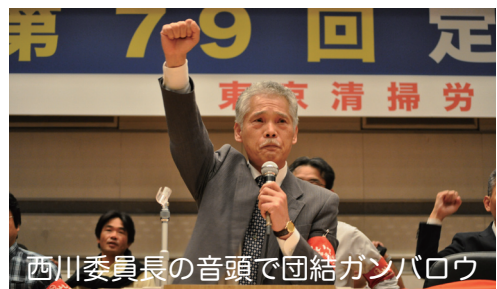
西川委員長は冒頭の挨拶で「正規・非正規、公共・民間の枠を超えた社会的労働運動を目指す」と、東京清掃の進むべき道筋を示しました。

来賓挨拶で鈴木副会長は、「組合は権利を守るためである。昔は大八車によるきつく非人間的作業だったが、

ストをやって待遇を改善してきた。清掃労働者としての誇りをもって社会的に意義のある運動を進めてほしい。退職者会は、地元から清掃労働者のための取組みを進めている。清掃労働者はかつて退職後3年で死ぬ悲惨な状態にあったが、長生きが可能になった。日々家庭を守り、組合を守っていったほしい」とエールを送りました。

経過報告と運動方針の審議に9名の代議員が発言し、①東京清掃の将来展望を切り拓くために何をなすべきか、②事業執行統一交渉拡大の方策、③各区における合理化攻撃や闘いを共有し共闘するための方策、④清掃工場の業務委託阻止の闘いと一組の組織的危機克服の取組み強化を、⑤級格付廃止の状況下、いかにして3級昇格の道を確保するか、⑥全労協議長金澤氏の書記雇用問題、⑦青年部運動の強化などについて議論が交わされました。

これらの議論を踏まえ、これ以上の生活破壊・権利破壊を許さず、生活と権利、平和と民主主義を守り抜くことを基調とする方針を確立し、退職者会の組織拡大へ向けた取組み強化も確認されました。



西川委員長の音頭で団結ガンバロウ

政府の責任でJRをはじめとする全ての雇用実現を！ 作り出そう戦争と貧困のない社会を！
10・24 団結まつり



今年の「団結まつり」は、国鉄闘争が「年金・解決金」相当の金銭部分で決着し、残る「雇用問題」を来年3月末を期限に設定して取り組んでいる中での開催になります。今度こそ、最後の「団結まつり」にしたいものです。東京清掃は、今年も5地連、青年部・女性部が模擬店を出店し、全面協力します。退職者会のみならず、積極的に参加してください。

団結まつりの案内

- 日時 10月24日(日) 10時～15時
- 場所 亀戸中央公園
東武亀戸線「亀戸水神駅」から3分

**東京清掃の確定闘争を
退職者会も応援**

10月12日、特別区人事委員会は△1.6%（年間平均で約10万8千円減）の不当な給与改定勧告を行いました（詳細は本部機関紙参照）。東京清掃は、次の3波の決起集会などにより賃金確定の闘いを組むことにしています。退職者会も応援したいと考えています。

- 第1波 10月21日18時
しごとセンターホール（飯田橋）
- 第2波 11月4日、12日の
ゾーン（地連別開催）
- 第3波 11月17日18時予定
江戸川総合区民センター